配偶者の糖尿病発症と本人のうつ病の関係が明らかに

概要

ハーバード公衆衛生大学院の古村俊昌 博士課程学生と京都大学大学院医学系研究科の井上浩輔 特定准教授、近藤尚己 教授（社会疫学）、矢部 大介　教授（糖尿病・内分泌・栄養内科学）、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の津川友介 准教授らの研究グループは、全国健康保険協会（協会けんぽ）の医療レセプトのデータ（約 52 万人）および生活習慣病予防健診のデータ（約 20 万人）を用いて、配偶者の糖尿病によって本人のうつ病リスクが上昇し、配偶者のその後の心血管疾患（CVD）がその一部を媒介することを明らかにしました。

これまでの研究により、糖尿病は本人のみならずパートナーへも心理的な負担を与えることが報告されていました。一方で、糖尿病の重要な合併症である CVD の発症がその心理的負担にどの程度寄与しているかは明確な検証がされていませんでした。本研究では、全国健康保険協会（協会けんぽ）に加入する世帯主（被保険者）とその被扶養者を対象とし、被扶養者の糖尿病の新規診断の有無における世帯主のうつ病症診断のリスクの変化を比較し、被扶養者のその後の CVD 発症（脳卒中、心不全、心筋梗塞）がどの程度そのリスクを媒介するかを調査しました。その結果、被扶養者が糖尿病の診断を受けた家庭では、そうでない（被扶養者が糖尿病の診断を受けていない）家庭と比べて、世帯主がうつ病の診断を受けるリスクがより高く認められました。また、世帯主のうつ病診断のリスクの一部は被扶養者のその後の CVD 発症によって媒介されていました。

本研究結果は、糖尿病を抱える個人の CVD 発症を予防することが、そのパートナーのうつ病リスクを軽減させる可能性を示唆しています。家族によるサポートは個人が糖尿病ケアを継続する助けになりますが、世帯全体を意識したメンタルヘルスのモニタリング体制を提供することも重要となる可能性があります。このような家族単位での健康に着目した研究は世界的に見ても限られているため、更なる知見の創出と効果的な施策の開発が求められます。

本研究成果は、2025 年 4 月 16 日に、国際学術誌「*American Journal of Epidemiology*」（オンライン）に公開されました。

※図は最終頁を参照ください。

１．背景

糖尿病は日本において最も有病率の高い生活習慣病の一つであり、継続的なケアの必要や重篤な合併症を引き起こすことから、糖尿病は患者の家族のメンタルヘルスにも影響を与えると報告されています。しかしながら、糖尿病の最も重大な合併症の一つである心血管疾患（CVD）の発症がその影響をどの程度媒介しているのかについて定量化したエビデンスは限られています。

２．研究手法・成果

日本における最大の医療保険者である全国健康保険協会のデータを用いて、521,010 組の 20 歳以上の夫婦のペア（平均年齢 54.1）を作成しました。2016 年度から 2021 年度における最大 6 年間の追跡の結果、配偶者（被扶養者）が糖尿病の新規診断を受けた夫婦では、配偶者が糖尿病の新規診断を受けなかった場合と比較して、世帯主（被保険者）がうつ病を発症するリスクが 8%高いことがわかりました（調整ハザード比[95%信頼区間]＝1.13 [1.04-1.12]、図）。媒介分析の結果、糖尿病の診断を受けた配偶者の CVD 発症は同相関の約 22.4%を媒介していました。

３．波及効果、今後の予定

配偶者の糖尿病診断はパートナーのうつ病リスクと相関し、同相関は配偶者のその後の CVD の発症によって媒介されている可能性があります。糖尿病を抱える個人のみならず、その家族に対しても適切なリソースを提供することは限られた医療資源を効果的に活用することに繋がるかもしれません。特に CVD リスクの高い糖尿病患者の家族に対して包括的なメンタルサポートを提供することが重要かもしれません。

４．研究プロジェクトについて

本研究は全国健康保険協会の「外部有識者を活用した委託研究事業」、日本学術振興会（JSPS）の協力を得て行われました。

＜用語解説＞

心血管疾患(CVD)：心臓や血管の機能異常によって引き起こされる病気の総称であり、心筋梗塞や脳梗塞などの病気が含まれる。CVD, cardiovascular disease.

＜研究者のコメント＞

本研究は古村（筆頭著者）が社会疫学を学ぶ中で、多くの研究が個人のみを対象としており、家族や世帯全体に着目した研究が少ないことに気付いた所から始まりました。現在、糖尿病を抱える個人は世界で 5 億人以上に達しており、最も重要な慢性疾患の一つと言われています。そのため、家族全体に着目した形でのサポート体制を検討することは、より効果的かつ包括的なメンタルケアを提供する上で重要な視点である可能性があります。世帯全体を対象とした研究は世界的に見ても限られているため、より効果的な施策の開発に繋がる知見の創出に注力していきたいと思います。

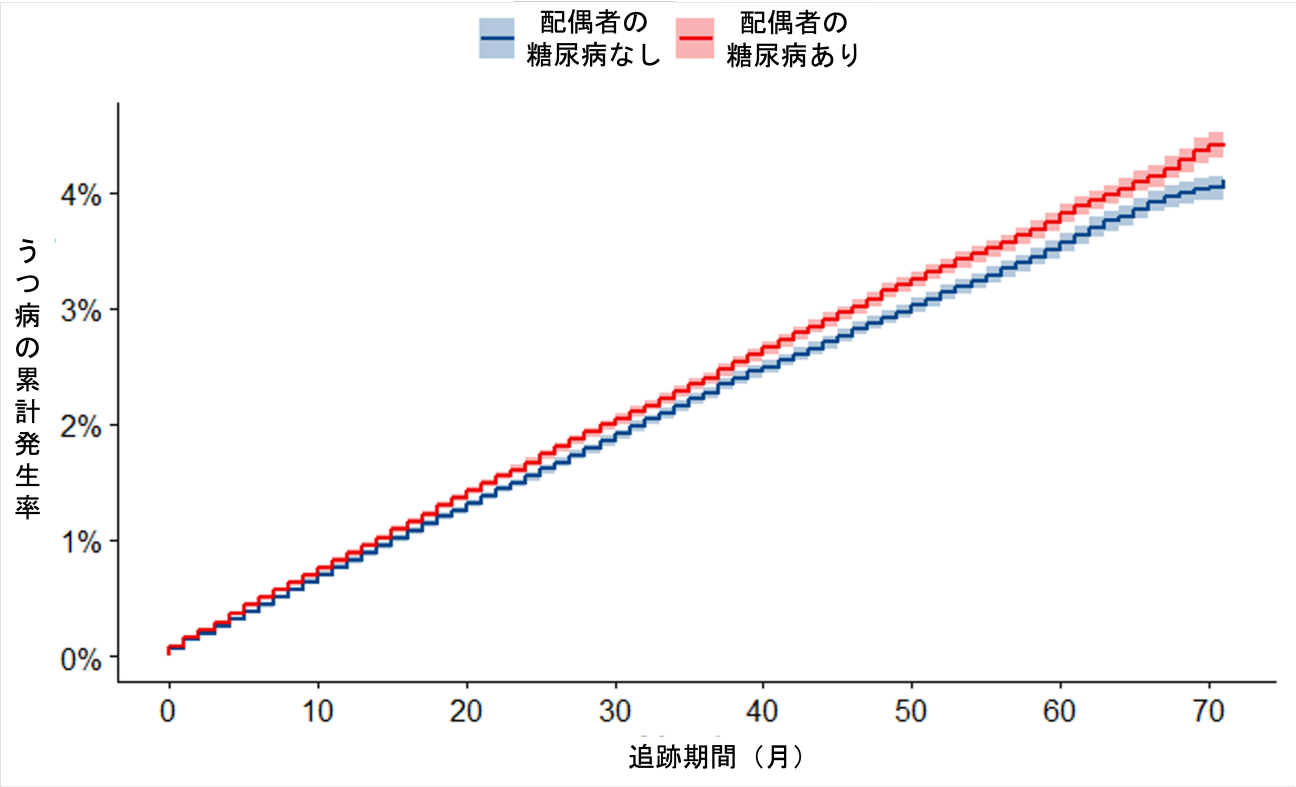
＜論文タイトルと著者＞

タイトル：Depression Risk Associated with Spouses' Diabetes and Cardiovascular Events: A Nationwide Cohort Study（配偶者の糖尿病および心血管イベントと関連するうつ病リスク：全国規模のコホート研究）

著　　者：　Komura T, Tsugawa Y, Yabe D, Kondo N, Inoue K.

責任著者：井上浩輔
掲 載 誌：*American Journal of Epidemiology*　DOI：10.1093/aje/kwaf075

＜参考図表＞



最大 6 年間の追跡の結果、配偶者が糖尿病の診断を受けていない世帯に比べて、配偶者が糖尿病の診断を受けた世帯では、世帯主がうつ病症の診断を受けるリスクが 8%高かった。